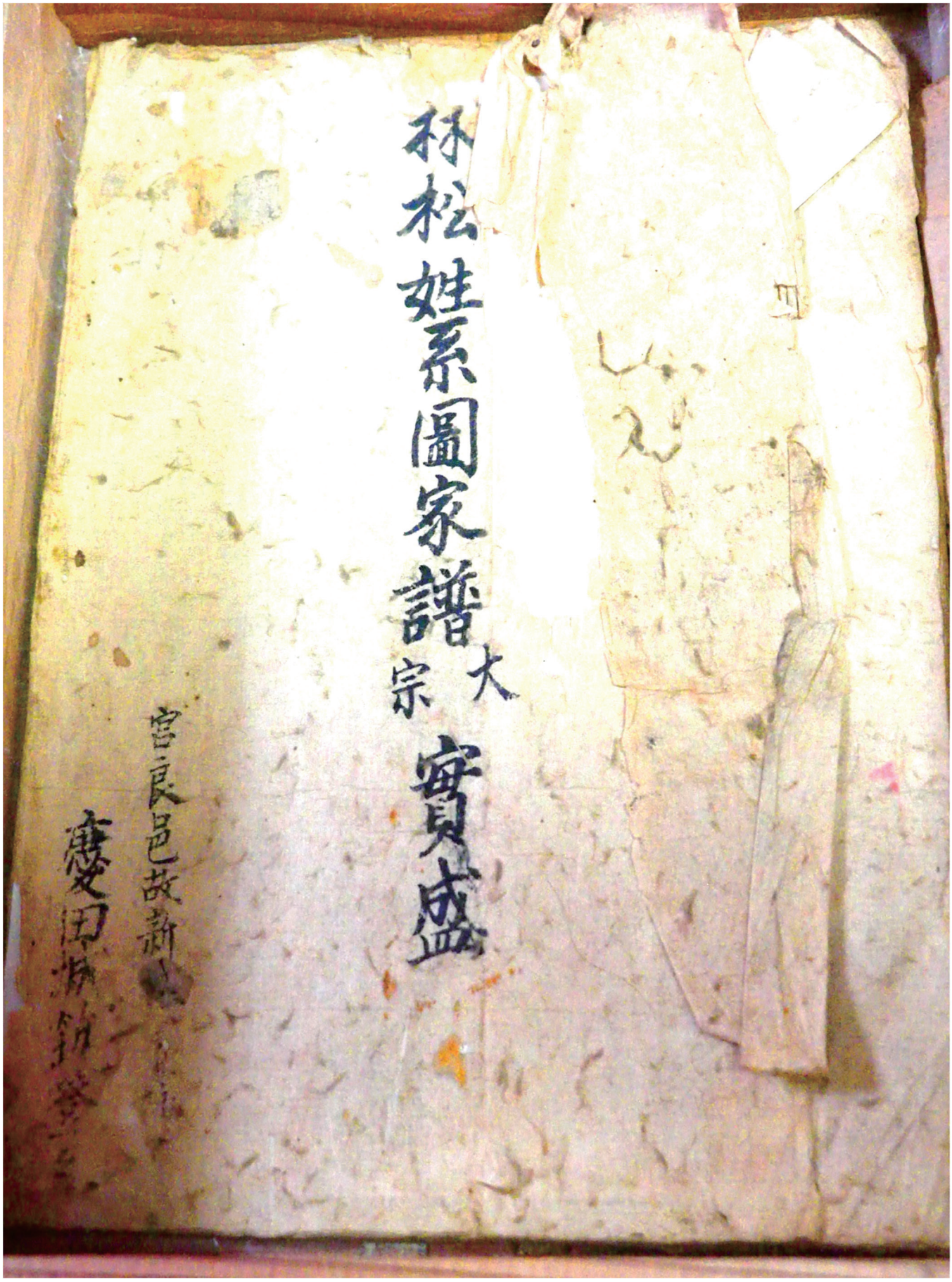


林松姓系圖家譜 大宗實盛

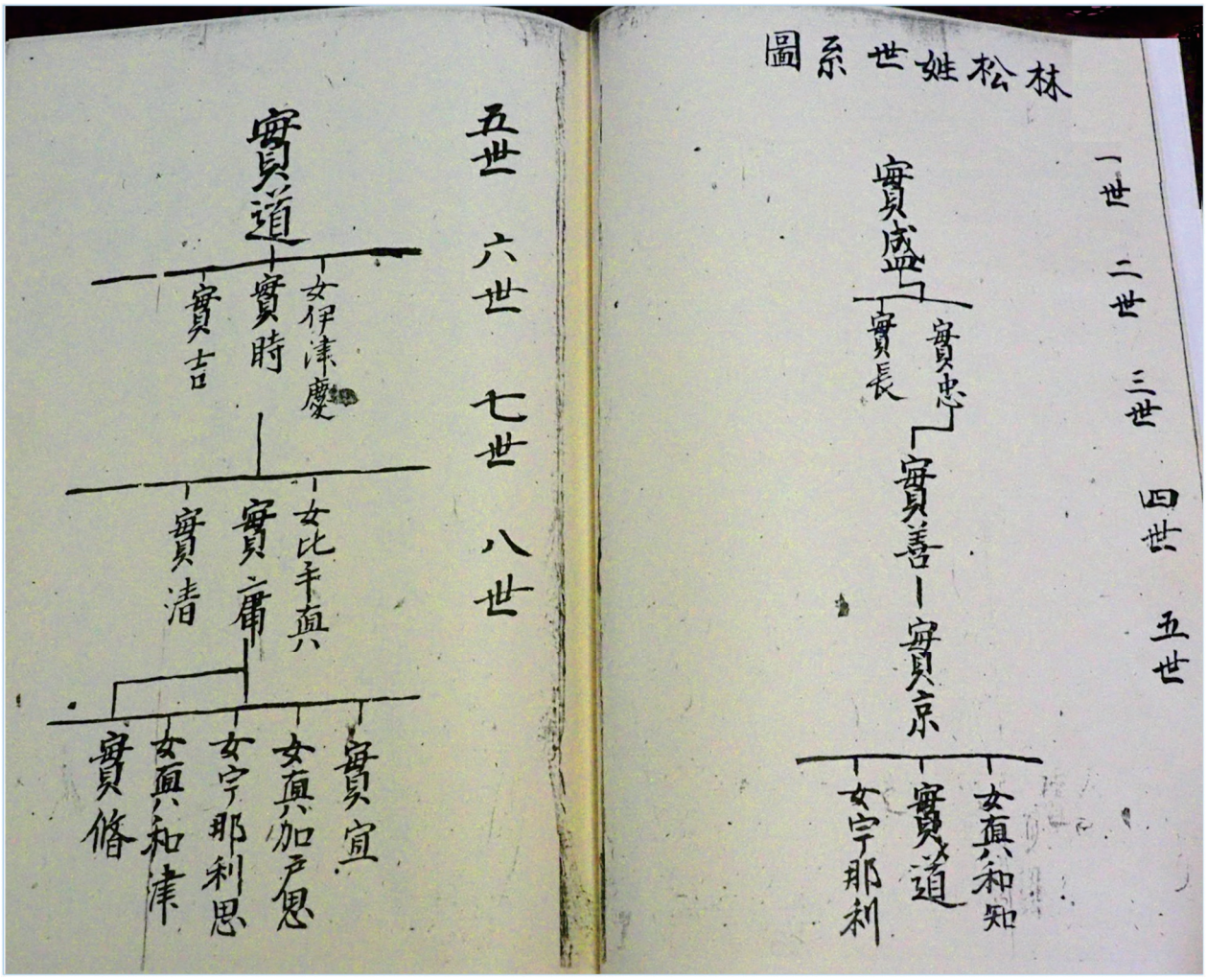
林松姓系圖家譜

大宗

寶盛

宮良邑故新[illegible]

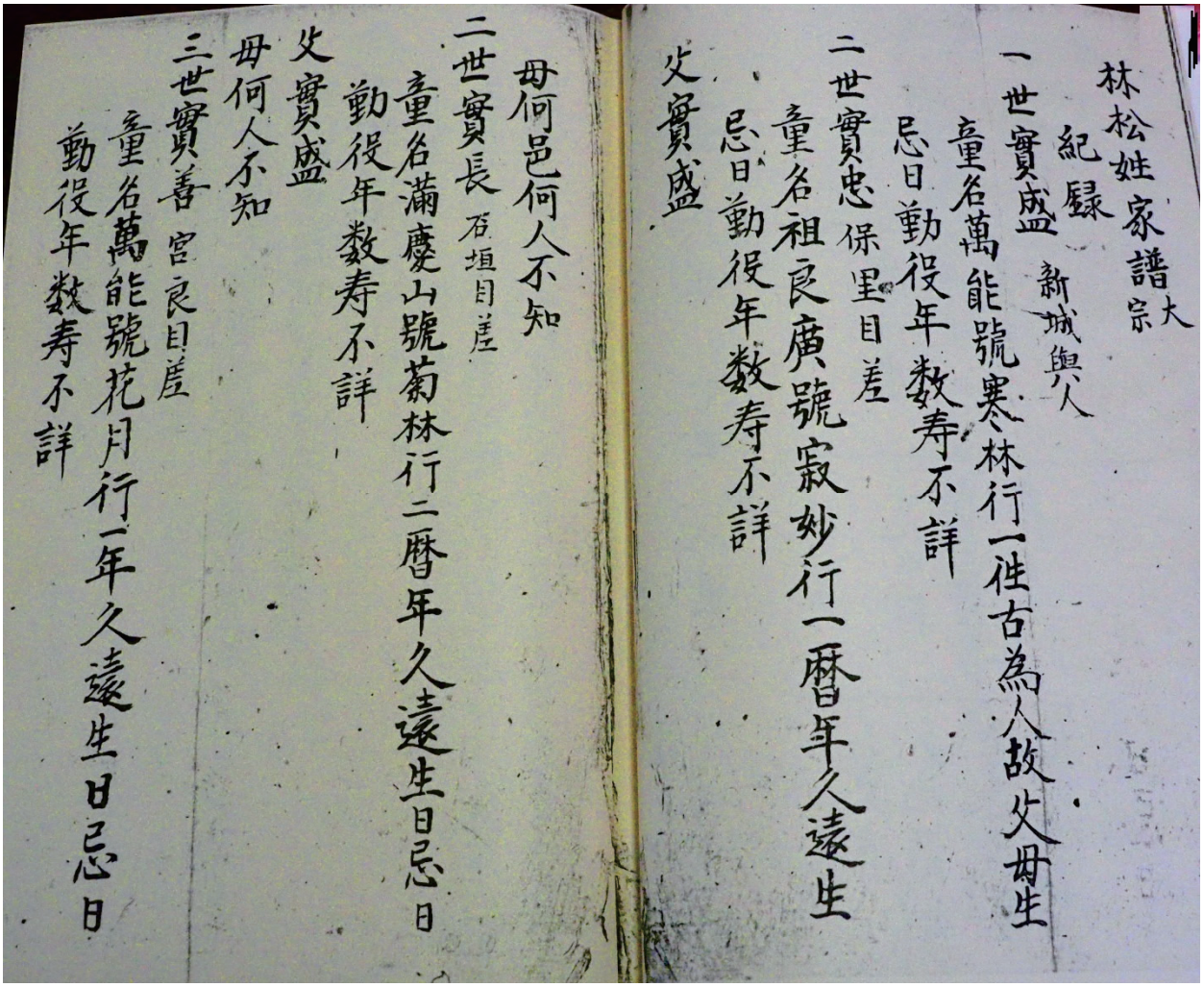
慶田[illegible]



はじめに

・この冊子は、石垣市宮良の家（石垣氏宅）で保管されていた『林松姓系図家譜』を活字化し、解説を試みたものである。沖縄県、石垣市などの図書館の蔵書に関連書籍が見当たらなかったため、所有者のご快諾を経て資料化に至った。2020 年 2 月、十六日祭の調査の時に見せていただいたもので、所有者･関係者の皆様にはここで改めて感謝申し上げたい。

・男性の童名に着色した（巻末の解説参照）
・官職・階級などを現す語（与人、目差、にや・仁也・尓也、掟親雲上、赤八巻・赤冠、筑登之、筑登之座敷；無系など）には____を付した。
・年月日は家譜の記載のままとし、補足のため西暦を付した。
・乾隆 36 年 3 月 10 日（1771 年 4 月 24 日）の八重山地震・大津波で没した記録には、〰〰を付した。日本の年号では明和8年にあたり「明和の大津波」とも証す。
・享年の年齢には一部に数え間違いと思われる箇所が見受けられる（七世實庸の生年については、巻末の解説参照）


林松姓家譜 大宗
紀録
一世實盛 新城與人
童名萬能號寒林行一往古為人故父母生
忌日勤役年數寿不詳
二世實忠 保里目差
童名祖良廣號寂妙行一暦年久遠生
忌日勤役年數寿不詳
父實盛
母何邑何人不知
二世實長 石垣目差
童名滿慶山號菊林行二暦年久遠生日忌日
勤役年數寿不詳
父實盛
母何人不知
三世實善 宮良目差
童名萬能號花月行一年久遠生日忌日
勤役年數寿不詳

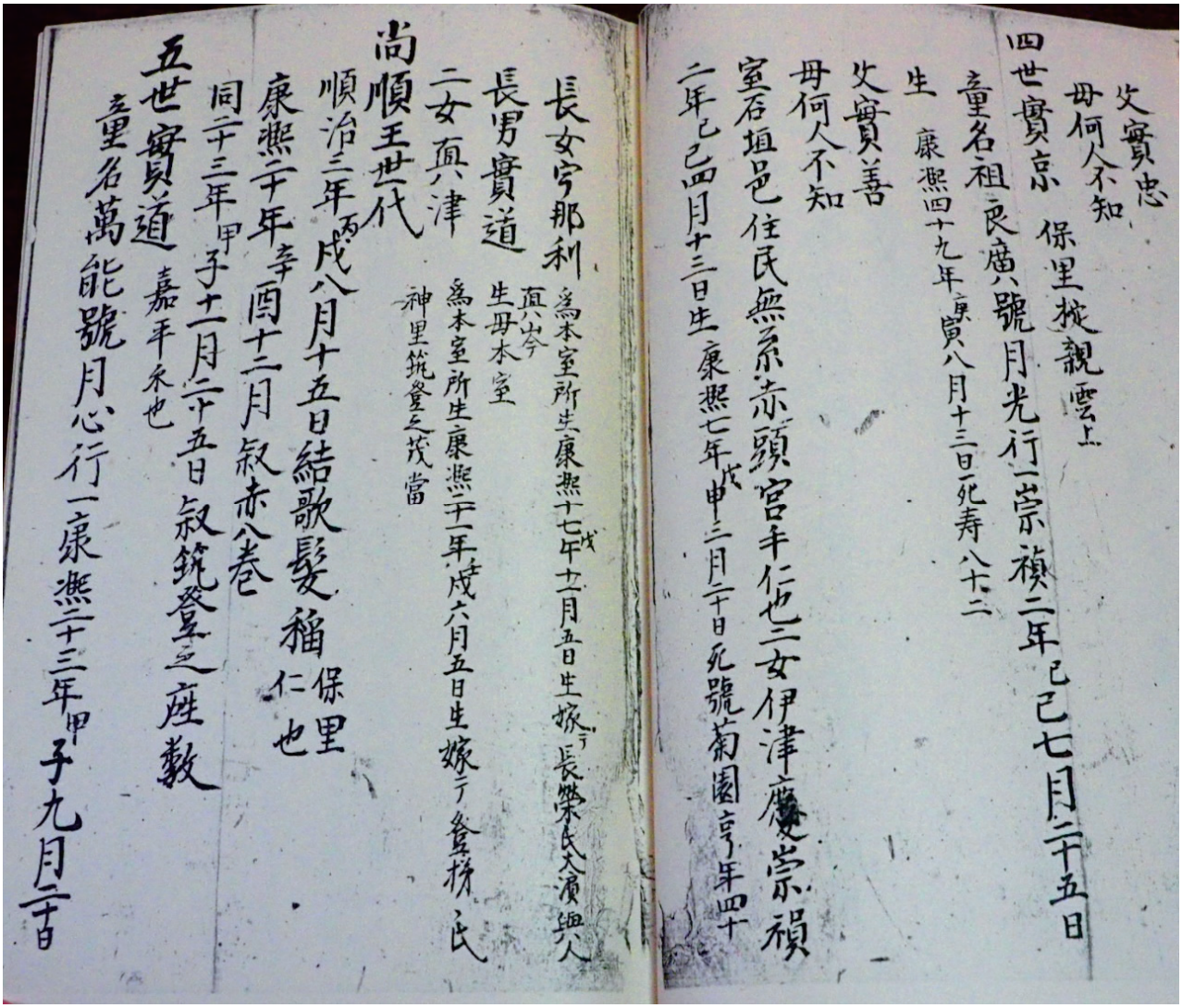
林松姓家譜　大宗
紀録

一世　實盛　新城与人
童名は萬能、號は寒林、行一。往古の人ゆえ父母も生まれも忌日も勤役も年齢も不詳

二世　實忠　保里目差
童名は祖良廣、號は寂妙、行一。久しく遠い時代のため生まれも忌日も勤役も年齢も不詳
父　實盛
母　どの村の誰か知らず

二世　實長　石垣目差
童名は満慶山、號は菊林、行二。久しく遠い時代なので生まれも忌日も勤役も年齢も不詳
父　實盛
母　誰か知らず

三世　實善　宮良目差
童名は萬能、號は花月。行一。久しく遠い時代なので生まれも忌日も勤役も年齢も不詳


父實忠
母何人不知
四世實京　保里掟親雲上
童名祖良廣　號月光行一　崇禎二年己巳七月二十五日
生　康熙四十九年庚寅八月十三日　死寿八十二
父實善
母何人不知
室石垣邑住民無系赤頭宮平仁也　二女伊津慶　崇禎
二年己巳十三日生　康熙七年戊申三月二十日死　號菊園亭　年四十
長女宇那利　為本室所生　康熙十七年戊午十二月五日生　嫁テ長榮氏大濱與人
長男實道　真山今　生母本室
二女真津　為本室所生　康熙二十一年戊戌六月五日生　嫁テ登梯氏
神里筑登之茂當
尚順王世代
順治三年丙戌八月十五日結歌髮　稲保里
康熙二十年辛酉十二月　仁也
同二十三年甲子十一月二十五日　叙赤八巻
五世實道　嘉平尓也
童名萬能　號月心行一　康熙二十三年甲子九月二十日

父　實忠
母　誰か知らず

四世　實京　保里掟親雲上
童名は祖良廣、號は月光、行一。崇禎２（１６２９）年７月２５日生。康熙４９（１７１０）年８月１３日、８２歳で没

父　實善
母　誰か知らず

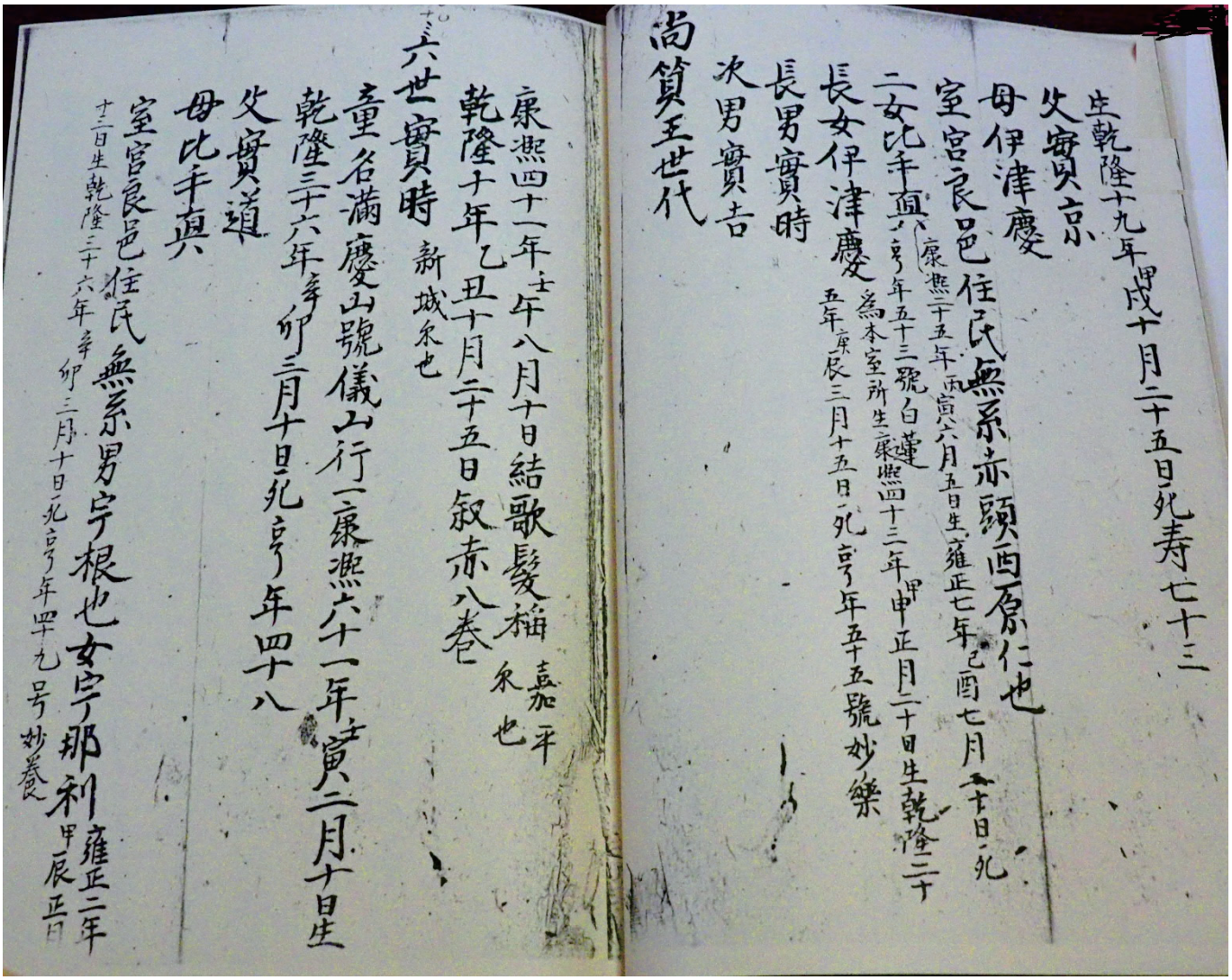
室　石垣村住民無系赤頭宮平仁也の二女の伊津慶。崇禎２（１６２９）年４月１３日生。康熙７（１６６８）年３月２０日没。菊園と號し、享年４０

長女　宇那利　１６７８年生。長栄氏大濱与人真岑に嫁ぐ
長男　實道（五世）
二女　真津　１６８２年生。登梯氏神里筑登之茂當に嫁ぐ

※伊津慶の死後の生まれだが「本室に生まれる所と為す」とある

（履歴）尚順王世代
１６４６年（１８歳）欹髪を結い、保里仁也と称す
１６８１年（５３歳）赤八巻
１６８４年（５６歳）筑登之座敷

五世　實道　嘉平尓也
童名は萬能、號は月心、行一。康熙２３（１６８４）年９月２０日生。


生乾隆十九年甲戌十月二十五日死寿七十三
父實京
母伊津慶
室宮良邑住民無系赤頭西原仁也
康熙二十五年丙寅六月五日生雍正七年己酉七月二十日死
二女比手真
享年五十三號白蓮
康熙四十三年甲申正月二十日生乾隆二十五年庚辰三月十五日死享年五十五號妙樂
長女伊津慶
為本室所生
長男實時
次男實吉
尚質王世代
康熙四十一年壬午八月十日結歌髮稱嘉平永也
乾隆十年乙丑十月二十五日叙赤八卷
六世實時 新城永也
童名滿慶山號儀山行一康熙六十一年壬寅二月十日生
乾隆三十六年辛卯三月十日死享年四十八
父實道
母比手真
室宮良邑住民無系男宇根也女宇那利雍正二年甲辰五月十三日生乾隆三十六年辛卯三月十日死享年四十九号妙養

乾隆１９（１７５４）年１０月２５日７３歳で没

父　實京

母　伊津慶

室　宮良村住民無系赤頭西原仁也の二女の比手真。康熙２５（１６８６）年６月５日生。雍正７（１７２９）年７月２０日没、享年５３歳、白蓮と號す

長女　伊津慶　１７０４年生。１７６０没、享年５５歳、妙楽と號す

長男　實時（六世）

次男　實吉

（履歴）尚質王世代

１７０２年（１９歳）欹髪を結い、嘉平尓也と称す

１７４５年（６２歳）赤八巻

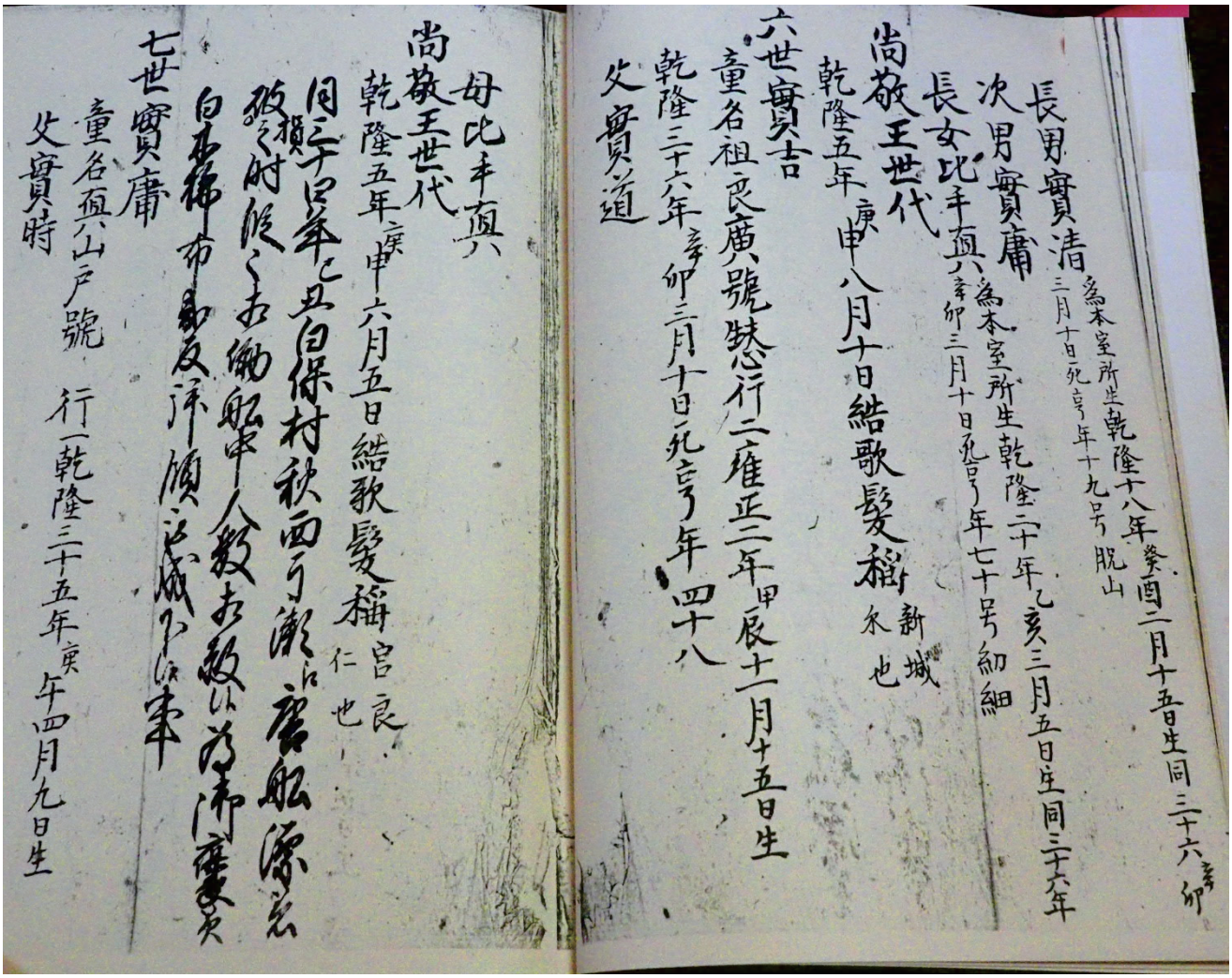
六世　實時　新城尓也

童名は満慶山、號は儀山、行一。康熙６１（１７２２）年２月１０日生。乾隆３６（１７７１）年３月１０日没、享年４８歳。

父　實道

母　比手真

室　宮良村住民無系男宇根也の娘の宇那利。雍正２（１７２４）年正月１３日生。乾隆３６（１７７１）年３月１０日没、享年４９歳、妙養と号す



長男　實清　1753年生。乾隆36（1771）年3月10日没、享年19歳、脱山と号す

次男　實庸（七世）

長女　比手真　1755年生、乾隆36（1771）年3月10日没、享年17歳、紉細と号す

（履歴）尚敬王世代

1740年（19歳）8月10日、欹髪を結い、新城尓也と称す

六世　實吉

童名は祖良廣、號は○心。雍正2（1724）年11月15日生。乾隆36（1771）年3月10日没、享年48歳。

父　實道

母　比手真

（履歴）尚敬王世代

1740年（17歳）6月5日、欹髪を結い、宮良仁也と称す

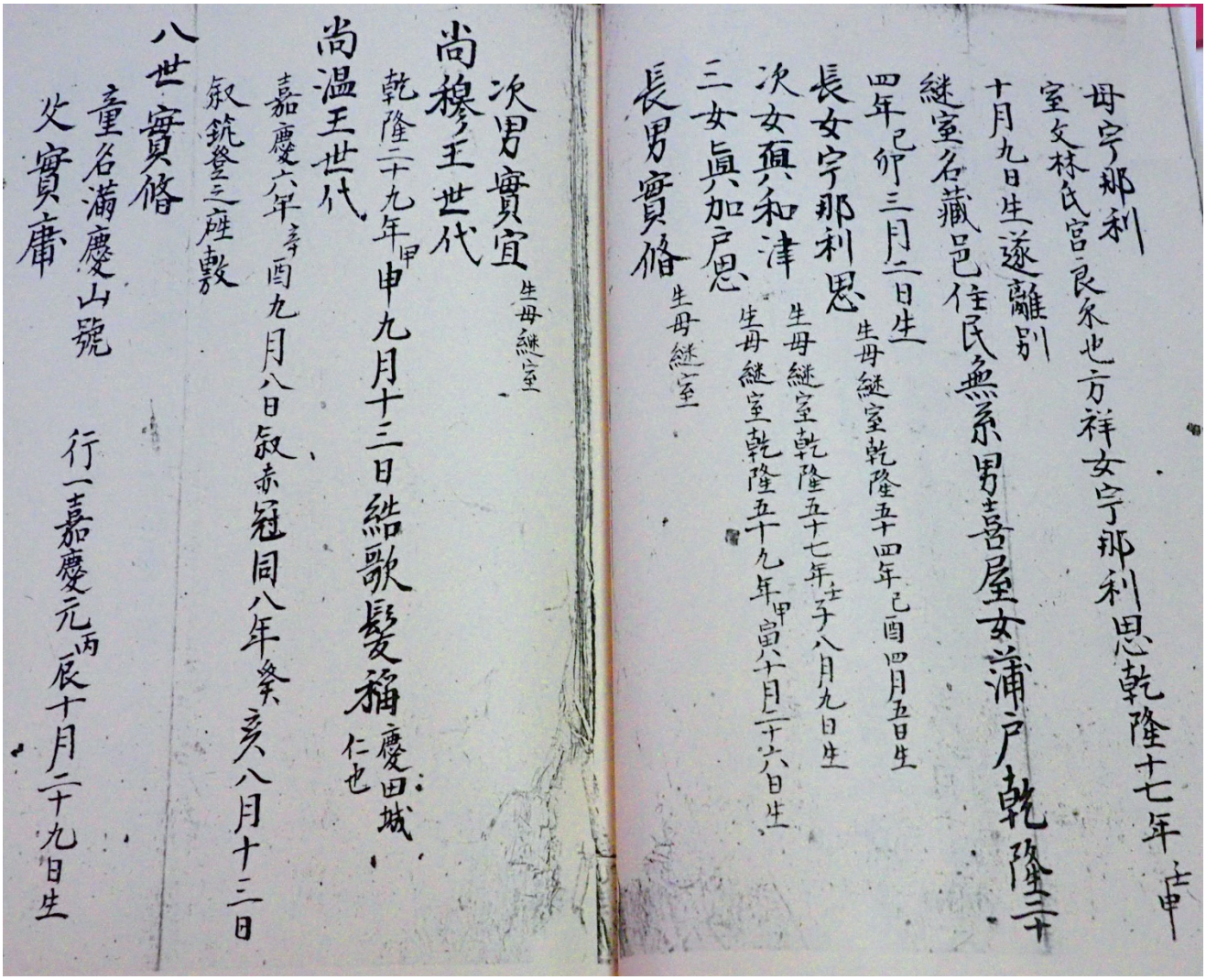
1769年（46歳）、［以下概要］白保村の沖で唐船が破損した時に、船中人数の救助のために働いたことでご褒美として白木綿布などをいただいた

七世　實庸

童名は真山戸、號　、行一。乾隆15（1750）年生 ※

父　實時

※生年：「三十五年」は「乾隆十五年庚午」の誤り？（巻末参照）


母宇那利
室文林氏宮良尓也方祥女宇那利思乾隆十七年壬申
十月九日生遂離別
継室名藏邑住民無系男喜屋女蒲戸乾隆二十
四年己卯三月二日生
長女宇那利思 生母継室乾隆五十四年己酉四月五日生
次女真和津 生母継室乾隆五十七年壬子八月九日生
三女真加戸思 生母継室乾隆五十九年甲寅十月二十六日生
長男實脩 生母継室
次男實宜 生母継室
尚穆王世代
乾隆二十九年甲申九月十三日結歌髪稱慶田城仁也
尚温王世代
嘉慶六年辛酉九月八日叙赤冠同八年癸亥八月十三日
叙銃登之座敷
八世實脩
童名満慶山號
父實庸
行一嘉慶元丙辰十月二十九日生

母　宇那利

室　文林氏宮良尓也方祥の娘の宇那利思。乾隆17（1752）年10月9日生。離別する。

継室（後妻）　名蔵村住民無系男喜屋の娘蒲戸。乾隆24（1759）年3月2日生

長女　宇那利思　生母継室。1789年生

次女　真和津　生母継室。1792年生

三女　真加戸思　生母継室。1794年生

長男　實脩（八世）　生母継室

次男　實宜　生母継室

（履歴）尚穆王世代

1764年（15歳）歌髪を結い、慶田城仁也と称す

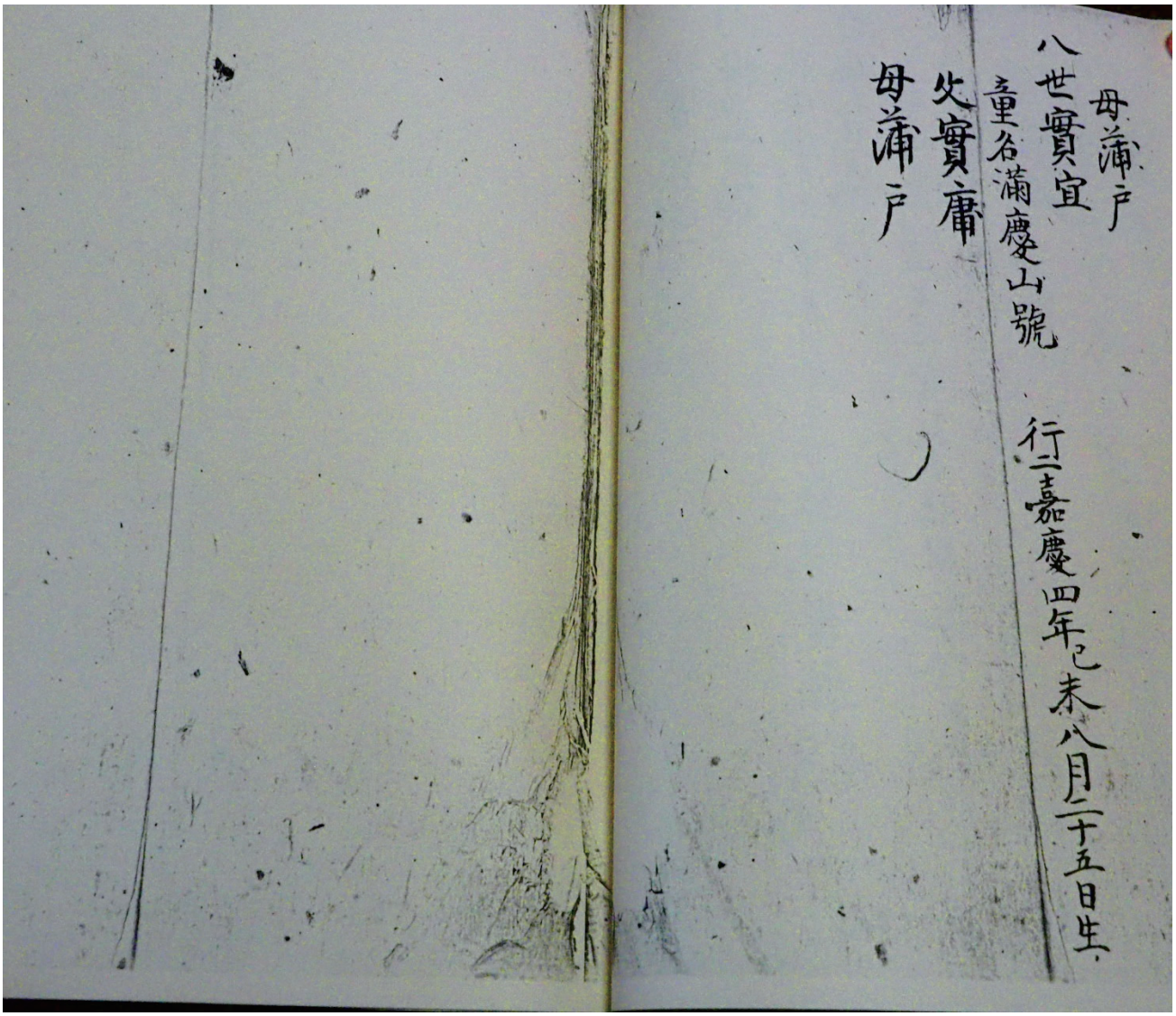
（履歴）尚温王世代

1801年（52歳）赤冠。1803年（54歳）筑登之座敷

八世　實脩

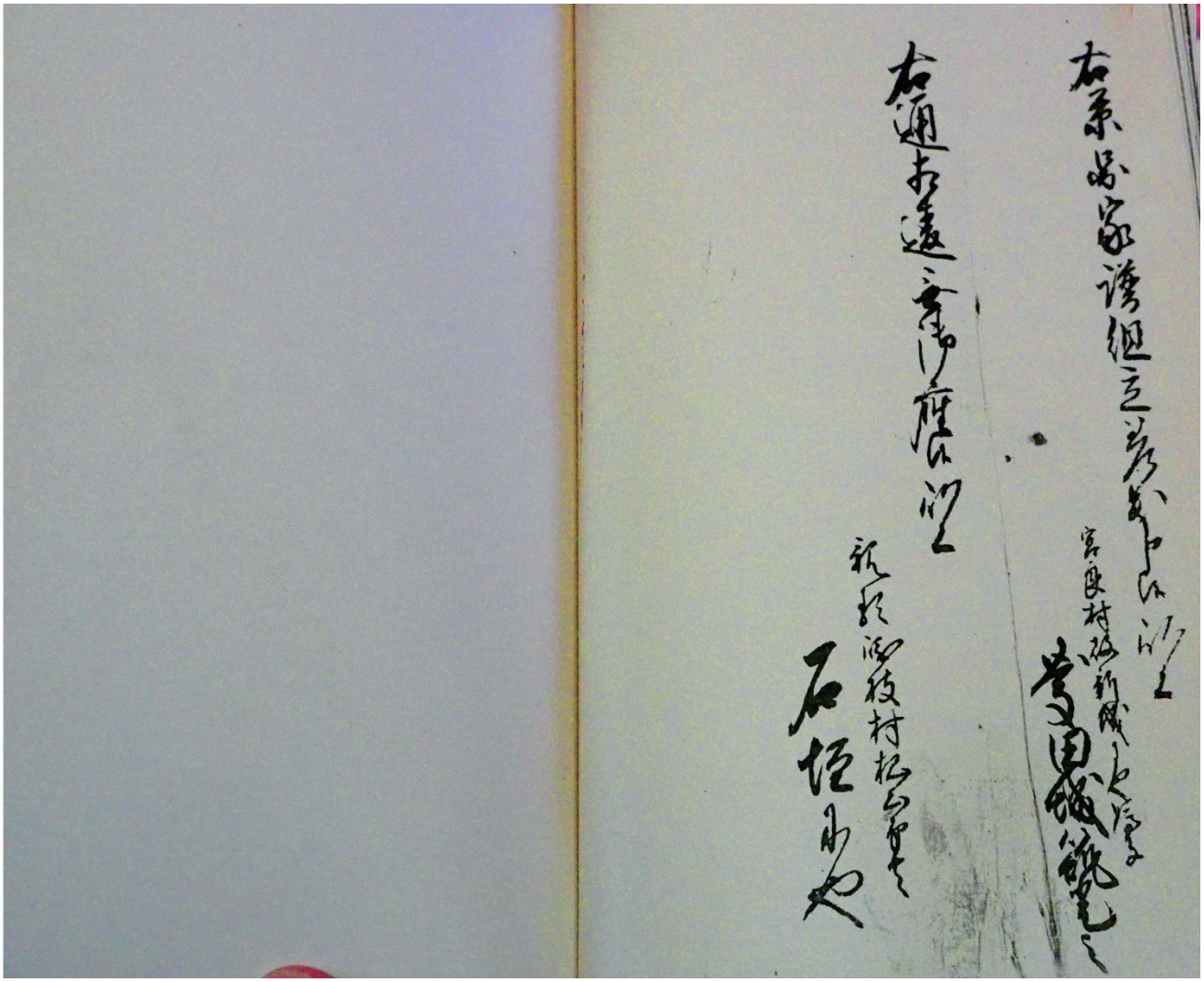
童名は満慶山、號　、行一。嘉慶1（1796）年10月29日生

父　實庸


母蒲戸
八世實宜
童名滿慶山號
父實庸
母蒲戸
行二嘉慶四年己未八月二十五日生

母　蒲戸

八世實宜
童名は滿慶山、號　、行二。嘉慶４（１７９９）年８月２５日生
父　實庸
母　蒲戸



右系図家譜組立前より申候　以上

宮良村故新城にや養子
慶田城筑登之

右通相違無御座候　以上

親類崎枝村杣山筆者
石垣にや

解説

★童名の継承のルールとは？　各家が有する童名から名付け、基本的には、祖父から継承していたため交互に現れる（例外あり）

世数	名	童名	弟の童名
一世	實盛	萬能	
二世	實忠	祖良廣	満慶山
三世	實善	萬能	
四世	實京	祖良廣	
五世	實道	萬能	
六世	實時	満慶山	祖良廣
七世	實庸	真山戸	
八世	實脩	満慶山	満慶山

★乾隆３６（明和８）年３月１０日（１７７１年４月２４日）は、八重山地震（大津波。明和の大津波）の日。

林松姓からも、５人の死亡（＝六世實時と、妻宇那利、長男實清、長女比手真、六世の弟實吉）が記録されている。

★この家譜を書いたのは、七世實庸か？

根拠①：宮古・八重山の地方役人層に家譜（二字姓）が許可されたのは１７２９年で林松姓では六～七世の頃。また、津波の後の家譜の再編成は１７７６年以降で、林松姓では七世の頃。

根拠②：表紙と巻末にある提出者名の「慶田城筑登之」を名乗れるのは七世實庸（慶田城仁也→慶田城筑登之親雲上）のみ。

根拠③：七世・八世は生年のみで没年が未記載。七世實庸が家譜の制作時に記し、その後は（ここには）書き足さなかったか？

★七世實庸の生年について

家譜には、實庸の生年は「乾隆三十五年庚午」と記されているが、誤記と思われる。

なぜなら干支・西暦と合わせて考えると、乾隆３５年は庚寅で１７７０年。庚午は乾隆１５年で１７５０年。この２０年の差をどう考えるか？

乾隆１５（１７５０）年生のほうが、室・継室と同世代で、自身の履歴とも整合性がある。

だが、「兄」の實清（乾隆１８年癸酉（１７５３年）生）より、年上になってしまう…。

←

そこで考慮に入れたいのは、乾隆３６（明和８）年３月１０日（１７７１年４月２４日）の地震・津波で、六世の一家が不幸にも亡くなっていることである。その後、七世實庸は、養子（次男）としてこの家の七世を継いだと考えられ、彼の童名・真山戸が代々の童名と異なるのもその証左と思われる。引き続き、検討したい。

林松姓系圖家譜 大宗實盛

科研基盤研究(C)
「琉球士のライフコースの解明を主題とした琉球家譜の研究」(課題番号 20K00977)

研究代表者：武井基晃（民俗学）
305－8571茨城県つくば市天王台1－1－1
筑波大学人文社会系（歴史・人類学）

2020（令和 2）年 11 月 30 日